

医療問題調査研究特別委員会記録

日 時 令和5年9月29日（金曜日）13時30分～14時09分
場 所 議員控室
出席者 平山委員長、阿部副委員長、佐藤委員、逢坂委員、村上委員、小寺委員、
磯野委員、舟見委員、工藤委員、村田委員
森町長、三浦副町長、土清水保健係長、石垣保健係主任
事務局 渡辺局長、嶋元係長

平山委員長

皆さん、こんにちは。予定の時間になりましたので、ただいまより医療問題調査研究特別委員会を開催いたします。今日の委員会は、担当課のほうから委員会を開催してほしいという要請がありまして、今日の開催となりました。今日は森町長も出席されております。まず、森町長にご挨拶をいただきまして、その後担当課より説明、報告を受けたいと思います。今日の案件は地域医療に関する報告、加藤病院の閉院についてという議題になっておりますので、皆さん、よろしく願いいたします。

それでは、町長、お願いいたします。

1 地域医療に関する報告について

説明員 森町長、健康支援課 土清水保健係長

森町長 13:30～13:39

改めまして、今回急なご案内になりまして、委員長に無理を言って今週中にとということでやらせていただきました。座って話をさせていただきます。

私のほうから経過と3のその他についてお話をさせていただきます。本来であれば金子課長がその部分を、私と一緒にずっと行動しておりましたので、資料に沿った報告というつもりでございましたけれども、御存じだと思いますけれども、身内の不幸ということで今日は私のほうからさせていただきます。それ終了後、2番の関連業務については土清水係長のほうから報告させますので、よろしく願いします。

分かりやすく時系列的にお話をさせていただきたいと思います。9月19日、加藤病院関係者来庁となっておりますが、その前の週から来たいというアポがありまして、内容については全く連絡ありませんでしたので、こちらのほうはその場で初めて聞いたとい

うことであります。冒頭委員長のほうから言ったとおり、加藤病院を閉鎖したいということでありました。当初、時期としては今年末、12月か、もしくは3月31日をもって閉院とするということでありました。その段階で私のほうは、急な話でありますし、できれば年度末まで延ばしてほしいという要望をいたしました。その辺については、理事会のほうに諮って前向きに検討したいというようなお返事でした。

改めて加藤病院の現状なのですけれども、もともとは加藤病院ということで経営していましたけれども、数年前に留萌記念病院等、ほかにもあるのですけれども、心優会という医療法人のほうに経営母体に移りまして、その中で運営しておりました。今回閉院に至った主な理由は2点ありまして、1点目としては、主に療養型病床群ということで入院患者を預かっていたのですが、コロナ禍の中で入院患者そのものが減ってきているということがあります。また、皆さん御存じだと思いますけれども、加藤隆一医師、それから加藤茂樹医師、両方とも健康に不安を抱えているという現状がありまして、その両面からこれから続けていくのは難しいということでありました。入院患者については、留萌記念病院のほうで引受けできるということでもあります。また、勤務している看護師の方含めて、その方についても留萌のほうで希望者については引き受けますということです。通勤等については、まだ完全に決めたわけではないのですけれども、バス等を仕立てて送り迎えをするというような形で雇用については守りたいというお話でありました。

その段階で、突然の話なので我々からも、先ほど言った閉院の時期含めて情報もいただきたいですし、こちらからお願いすることもあるかもしれませんので情報交換をよろしく申し上げますということはありませんでした。そのときつけられた条件が、帰って報告をした後にまた理事会等を開いて、月曜日、25日に加藤病院のホームページのほうで発表するという予定でしたので、26日までは対外的には、役場内部も含めてなののですけれども、発表を控えてほしいということがありました。冒頭の挨拶に関わるのですけれども、私としては早く議会を開きたいというのがありましたので、その了承を得る中で、加藤病院の閉院ということでご案内できないということで、院長、事務方のほうに理解いただいて、今日みたいな形になったということでもあります。

道立病院のほうにも心優会としては伺うということだったのですが、19日、私どもが会った段階では道立のアポが取れていなくて21日になるということでしたので、道立病院のほうに報告を終えた翌日の22日、金子課長と一緒に道立病院の阿部院長、それから佐藤事務局長とお会いしてきました。その時点では、前日に阿部院長は閉院のことを聞いておりまして、いろんな意見交換等もさせていただきましたけれども、昨日聞いてすぐということで、我々としても対応せざるを得ないけれども、今すぐどうこうということはないので、何とか住民に迷惑をかけないでやれるような体制を来年に向けてやって

いきたいというようなことでありました。細かいことでご質疑あれば、質疑の中で答えたいと思います。

25日以降ホームページを見ていたのですけれども、発表にならなかったのですけれども、27日ですか、金子課長のほうからどうなっていますかということを経理局長に確認したところ、理事会は開きましたと。町の申出のとおり、3月31日をもって閉院の方向で話を進めていますと。決定という表現ではなかったと言っていますけれども、そういうふうな報告を受けました。

今後のことなのですけれども、3番、10月3日、北海道医療関係部署への訪問ということですが、私のほうで道立病院局のほうに3日の日に伺います。併せて、焼尻診療所の医師が3月31日をもって退職したいという申出があったということを経理局長、地域医療課から連絡いただきましたので、その旨も含めて地域医療課のほうに伺ってきたいと思います。

阿部院長が危惧している点としては、焼尻診療所の医師が不在になるということは、それ以前は知りませんでした。道立のほうから聞いて、ぜひ町長のほうから道庁のほうへ行って、迅速に焼尻診療所の医師が補充できるように努力してほしいということもお願いされました。過去、なかなか決まらないときがありまして、道立病院の医師が来診等で島に通ったこともありますので、今回の加藤病院のほうプラス、遠別で医師がいないという状況があります。2次医療に関しては遠別は名寄もしくは稚内に行っているのですが、通常医療のほうでは道立病院のほうに来ているということでもありますので、それなりの体制を整えていかなければならないということでもありますので、改めてそのものも含めて、道立病院は道の機関でありますから内部調整とかそっちのほうから言いますけれども、いわゆる所在地町村としてまとめて先ほど言った10月3日に行きたいと思っております。

各町村長に発表になってから伝えるというのは失礼かなと思ひまして、月曜日発表ということなので、それに合わせて苫前、初山別の町村長にも連絡させました。苫前もそうだと思うのですけれども、初山別村長のほうからは、一緒に行動していくことが必要だということであれば、声をかけてもらえればみんなで道立病院の充実について今後動いていこうというような、電話ですから公式な話ではありませんけれども、そういう言葉をいただいていることも併せてご報告させていただきます。

取りあえず経過については以上とさせていただきます。次、2番に行きますか、ここで切りますか。

平山委員長

2番行きます。土清水係長のほうからお願いいたします。

土清水係長 13:39～13:41

健康支援課の土清水です。よろしくをお願いいたします。座って説明させていただきます。

ただいま町長から説明ありましたとおり、1番と3番につきましては先ほどの説明をもって完了させていただきたいと思っております。2番の関連業務についてというところではありますが、心優会からの報告を受けた後、町長からの指示を受けまして加藤病院に関連する業務の調査というのを各課で実施しております。現時点で把握している業務はここに記載のとおりとなっておりますが、1番から10番までが当課、健康支援課に関わる業務、11番、12番、13番の3つにつきましては総務課に関わる業務、14番、15番がそれぞれ福祉課、学校管理課ということで多岐にわたっております。今後、調査結果を取りまとめ次第関係課による打合せを行いまして、今後の対応などを検討していく予定というふうになっております。今後、町長の北海道のほうへの訪問ですとかそういうことを踏まえまして、当町の対応策といいますか、そのようなことを検討してまいりたいというふうに思っております。

私のほうからは以上でございます。

平山委員長

どうもありがとうございました。ただいま町長のほうからこれまでの経過、担当課のほうから関連業務について説明、報告がありました。これについて皆さんから質疑とかあれば受けたいと思っております。

— 主な協議内容等（質疑） — 13:41～14:09

磯野委員 先ほど町長からお話ありましたけれども、私が一番心配していたのは療養型の病床なのですけれども、かなり減ってきているということなのですけれども、現状どのぐらい受け入れているのですか。

森 町 長 医療法人とはいえ民間のあれなので、具体的な数字を聞いて公表することにはならないと思ひまして、直接数は申しませんでした。目で見えた部分ということで報告しますと、25日月曜日なのですけれども、米

寿のお祝いと100歳のお祝いで記念品を配ることをやりました。加藤病院には100歳の男性の方がおりまして、これは国のほうからなのですけれども、総理大臣の代理で行ってきたところ、私が見た病室は3人部屋に1人、それから隣の部屋も3人部屋に1人です。その割合かという、それよりは多いということです。具体的な数字を言っているのかどうかというのは判断に迷いますので、半分強ぐらいの現状ではないかなというふうに、これは私の想像ということにさせていただきたいと思います。

磯野委員 留萌の記念病院が引き受けてくれるということだったのですけれども、今入っている家族の方々の了解を得ているということなのか。

森町長 まだ正式発表していませんので、患者の方に発表したかどうかは私のほうでは把握していません。先走った答えになって申し訳ないのですが、月曜日行ったときに事務局長さんにうちのほうから、職員の方々への内示というのですか、そういうのはどうだったのですかということを知ったら、恐らくなのですけれども、22日だと思います。先週末に職員のほうには伝えましたということで、かなり動揺している方がおりましたということを経理局長から聞きました。

磯野委員 もう一点。関連業務についてなのですけれども、今まで加藤先生が担ってきたのですけれども、健康支援課ということになっているのですけれども、関連業務の医療については道立病院の先生が担ってくれるという理解でいいのでしょうか。

土清水係長 関連業務については全て加藤病院の業務になっております。こちらの業務なのですけれども、まだこれからの調整になりますので、予防接種ですとか特定健診ですとか、このような業務は道立病院も並行して契約している業務ですので、道立病院のほうでは重荷になるかもしれないですけれども、人数は増えるだろうなとは思っています。

阿部副委員長 今回の関連業務の部分でいきますと、町でやっている部分とそれ以外、例えば幼稚園の健康診断であったりそういったのも加藤病院さんのほうで引き受けていたのかなという印象があるのですけれども、理事会のほう

では3月31日をもって閉院するというので、今後羽幌町の中の医療体制というのをしっかり整えていかないと、医師が2人減るということになりますので、それプラス看護師さんとかも減りますので、町長にお聞きしたいのですけれども、道のほうにも要請していく上で例えば医師の数を、今道立病院のほうは7名でしたか、それよりもプラス2人ぐらい必要なのだということ、焼尻のほうもありますけれども、そういったふうに要望していくのかどうなのかお伺いしたいと思います。

森 町 長

今日に向けて担当課長等含めてそういうようなことも考えていたのですが、昨日の朝不幸があったということで、急遽ということもあって、行政的に具体的に詰めている状況はないと思います。3日に行く部分に関しては、具体的な数字を挙げてお願いするというよりは、地域の実情等含めて強く訴えてきたいと思っています。少し細かいことであるかもしれませんが、道立病院の中では加藤病院の患者数を押さえていまして、このぐらいですということだったので、数字は言いません。それに対しては何とか吸収していきたいということだったので、私が危惧したのは、加藤病院の場合、私自身もそうなのですが、3つぐらい薬をもらっているのです。科がみんな違うのだけれども、加藤病院に行くとい一遍に3つ分くれるので二月に一遍行っているのですけれども、道立に行った場合、場合によってはそれぞれ別々に行かなければいけないということになると3倍になってしまうわけです。そういうことも含めて今後いろいろ相談したいということをつら、そうだなということも言っていましたので、医師を増やす、もちろんそういう努力はしますけれども、それ以外にも受診体制その他、今後検討していただろうようお願いしなければならぬですし、我々ができる協力含めて、住民に対する周知だとか、議会のほうは住民の代表でいろいろこれからお話をさせていただきたいと思っておりますけれども、総意を取りまとめて道なり直接病院なりに意向を伝えるということにしたいと思っておりますので、率直に言うと言った瞬間は頭が真っ白だったというのが本当で、そこから1週間程度ですから、これから皆さんの意見を聞きながら、参考にしながら動いていきたいと思っておりますので、よろしくお願ひします。

阿部副委員長 今、町長おっしゃったように、道立病院は道立病院としてしっかりした

病院ですけれども、加藤病院というのは町民にとって、自分も通院しているほうなのですけれども、短い時間で受診して薬をもらってという中で、そこがなくなることによって町民にとって、煩わしきと言ったらあれですけれども、そういったところも出てくると思いますので、ぜひ町長のほうにも道のほうに対していろいろと要望していただきたいと思えますし、議会のほうも議長のほうからそういった話があれば一緒になってやっていけると思いますので、よろしく願いいたします。

磯野委員 すみません。もう一点。私も主治医が加藤病院だったのですけれども、先月かな、加藤先生のところに薬を3か月に1回定期的にもらっていたのですけれども、それがもらえなくて、お薬手帳を持って道立にこれこれ加藤病院にかかっていますと言ったら、加藤病院のあれをもらってきてくれと。

平山委員長 紹介状。

磯野委員 紹介状を。結局診断してもらえなくて、紹介状をもらいに行ってもまた行ったという経緯があるのです。その辺のところはどうなのか。ほかに加藤病院に通っている人がたくさんいるのですが。

森町長 そういうことも受け止めて、今後いろいろ話をするとき、私も例を言いましたから、そういう部分も含めてこれからお互いの情報交換の中でという話なので。磯野委員に私が答えるというのは難しいので。

磯野委員 そういう要望もしてほしいということです。

森町長 分かりました。

佐藤委員 今回は加藤病院に重症でおられる方は留萌のほうで引き受けてくれるという形を取るのですが、その後重症者が出た場合、従来であれば道立病院から、詳しいことは分からないけれども、ある程度の人間だったら加藤病院が引き受けてという、そういう話であったのですけれども、今後の道立病院の受入れの仕方について、重症度あるいはまた留萌記念病院

にいた方々は羽幌の道立病院で診てくれるような体制を取ってもらえるものなのか、今後の話合いになると思うのですけれども、その辺のことについてはどう考えているのですか。

平山委員長 暫時休憩します。

(休憩 13:50～13:53)

平山委員長 休憩前に引き続き会議を開催いたします。

森 町 長 今の佐藤委員の質問については、当然そういう危惧はありますので、道立病院のみならず心優会とも連絡を取り合って、なるべくスムーズに移行し、かつそれ以降についても連絡を取り合いながらいきたいと思えます。加藤病院は地元の病院でしたけれども、これがなくなって留萌に吸収するということは、羽幌町民のそういう方々にとっては留萌が唯一の受皿になりますので、今後とも心優会とはきちっと関係を保ちながらいかなければならないと思えますので、そういうふうに進めたいと思えますので、よろしくをお願いします。

小寺委員 先ほど阿部委員もおっしゃっていたのですけれども、関連業務についてです。役場管轄では1から15があると思うのですけれども、先ほど言ったように学校ですとか幼稚園ですとか一般の企業も含めて加藤病院の先生にはいろんな形で協力していただいていると思うのです。そういうここに出ない業務含めて来年度以降どうしようという不安も出てくると思うので、情報を病院とも共有しつつ、受皿探しと言ったら変ですけども、できるような協力体制をつくっていただきたいなというふうに思います。情報が無いので、どんな業務があるかというのは分からないと思えますけれども、少しでも不安がないようにスムーズに移行できるような手助けを町としてもしていただきたいなというふうに思いますが、どうでしょうか。

土清水係長 先ほどもありましたけれども、町全体での医療体制といいますか、そういうことなのですが、学校医なのですからけれども、学校医は令和5年から

道立羽幌病院に委嘱しております。先ほどからあります幼稚園ですとかこども園、そちらのほうは加藤病院に委託しているという部分がありますので、まだその情報は幼稚園側には届いていない、今日を機会に報道関係から知るような形になるのかなと思うのですが、いろんな混乱が起こると思いますので、担当課含めまして話を聞いて、町全体として医療の体制というのを確保していきたいなというふうに考えておりますので、よろしくお願いいたします。

小寺委員 重ねてになりますが、今度10月3日に羽幌町だけではなく、周辺町村の首長さんも一緒に行かれるかもしれません……

森 町 長 10月3日に関しては私だけです。

小寺委員 その後何かあれば一緒という話でしたね。すみません。そういう動きは大事だと思いますし、阿部委員がおっしゃったように、議会も前回一緒に行かれたと思うのですがけれども、町全体、行政だけではなく、議会、周辺町村も巻き込んだ形で要請ができれば、ぜひ協力して議会とも一緒にやっていってほしいなというふうに思いますので、今回みたく情報を共有してくれるというのが一番ありがたいというか、早く町民の人に報道以外で正しい情報を伝える機会にもなりますので、今後とも情報の共有とさまざまな協力をみんなでやっていきたいと思いますというふうに思います。

磯野委員 1点確認させてください。私の記憶では、大分前なのか、在宅医療も加藤病院だったような気がしていたのですが、全くそれはなかったですか。

土清水係長 定かな情報ではないですけれども、今やっているのかは私どもも不明です。

村田委員 確認というか、この話を町長から聞いたときは非常に残念で、今の説明の中でいくと、療養型の入院に関しては減ってきている。それも留萌の記念病院で引き受けられるということなので、難しい話なのですが、私としては、先ほどの説明でも心優会の理事会でも決定事項にはなってい

ないみたいな、いつ閉鎖する云々という中で、民間ですからお願いはできないかもしれないですけれども、療養型の入院は諦めても、町医者としての外来だけでも心優会から医者を1人何とかしてとか、そういう手だてはないものかどうなのか、手の打ちようがないのかどうなのか、そこだけは少し頑張ってみてもいいのかなと思うのですけれども、見解としてはどうでしょうか。

森 町 長 言い方があいまいで申し訳ありませんでした。閉院は決定です。心優会の理事長がいて、経営母体のほうがという表現をしていましたけれども、それを交えて理事会を開いて、加藤病院の閉鎖を決定しましたと。その上で、最短で12月31日、遅くとも3月という方向で進めておりますということでしたので、民間医療法人ですから、しかるべき機関、理事会という言い方をしていましたけれども、それで決定したということです。その後もう一度理事会を開いて、町の3月31日までということ伝えて、それに関してはその方向で進めていこうということが、先週の金曜日でしたか、木曜日でしたか、金子課長が問い合わせたところそういう返事をいただいたということです。まずは閉鎖ということを法人内で決めて、という報告を受けています。

村田委員 そういうことになると、今いろんな委員さんがお話ししたこれからどうするかというところでしか検討の余地がないということなので、総合的に加藤病院に外来で通っている患者さんのこと、3町村ぐらいかな、先ほど町長が言ったように各町村と連携して道立病院なりの部分、羽幌町としては議会としても協力することは協力しますので、町だけでなく初山別も困らないような形で体制をつくっていけるように、12月だったら時間がないという状態なので、喫緊の課題として協力しますので、取り組んでいただきたいと思います。答弁はいいです。

佐藤委員 今言っていた加藤病院が心優会という形と留萌の記念病院とは別々な形なのですか。同じ心優会の中に留萌の記念も入っているということなのですか。

森 町 長 心優会の全容について正確に説明できるだけのものはないのですけれど

も、心優会という医療法人の中に留萌記念病院、加藤病院、小樽のほうにも持っていて、道内で持っていて、その中での統廃合も含めてやった中で……休憩してもらって。

平山委員長 暫時休憩します。

(休憩 14:02～14:02)

平山委員長 それでは、休憩前に引き続き会議を戻します。

逢坂委員 唐突なことで、私も今回の一般質問の中でも道立病院の充実ということでお願いをしたところがあるので、加藤病院がなくなるということは本町の医療過疎が心配される。私も薬をもらいに通院しているのですけれども、そういう方が多いので、そういう意味で不安というか、大きいかなというふうに思います。道立病院については今後、加藤病院がやってこられた部分は全部道立病院で受けてくれるのかどうかというのはこれからだと思います。これから担当課のほう、あるいは町長はじめ役場のほうで進めていくのかなというふうに思います。私が心配しているのは、先ほど議長からお話あったのだけれども、療養施設がなくなるという部分、受入れは留萌の記念病院ということで、先の話になるのですけれども、団塊の世代でどんどん、どんどん今施設に入っている方が療養施設に入るという形が年々増えていくのではないかと思っているのです。そうなるだろうと考えていたので加藤病院がいいかなというふうに思ったのですが、なくなると留萌ということになるので、留萌のキャパかどれだけあるのか、羽幌町だけの療養施設ではないので、そういう心配もあるので、今後のそういうことも含めた体制と、留萌とかになると家族に負担がかかってくるのではないかと思うので、そういう部分も含めた大きなくくりの中で今後町として、施設に入る支援とか家族支援とか、提案なのですけれども、支援も含めてやってほしいなという要望なのですけれども。

森町長 具体的な話ではないので、今の時点で我々が具体的なプランを持っているわけではないということだけまず伝えておきます。今おっしゃったの

は、コロナ禍ということで、前だと毎日通っていた人も面会ができないということがあったと思うのですけれども、コロナ前は、濃淡はいろいろあるけれども、毎日のように顔を出していた人たちもいましたから、そういう意味では留萌は遠いということはあると思います。ただ、金木さんの6月の質問なんかでも、ほかの地域に行った人たちへの医療補助、交通費補助みたいところで、区別をどうしていくかというのは難しいというような議論をしたことを今思い出したのです。具体的に詰めたわけではないのですが、市立病院にほかの病気で入っている人たちや入院している人たちはどうなるのだとかそういうことにもつながりますので、1つの提案としてお聞きして、まずは道立病院の充実、その他案も含めて、全容が明らかになった段階も含めて進んでいきます。これから改めて進む段階で、できるだけ町民の不安をなくすためには相手の許可を取らないと難しい。医療法人とはいえ民間ですので、許可を取りながら、この部分は言っているのか、同意は得られているのかみたいなことをお願いするようなことは頭の中では考えています。

逢坂委員 分かりました。

平山委員長 ほかにございませんか。ありませんか。ないですか。(なし。の声) それでは、今日はこれで終わりたいと思います。

森町長 1点、地域医療に関する報告ということで、折り鶴に参加した方には、フライングぎみに私が挨拶の中で触れてしまったという言い方がいいのかもしれませんが、その後確定したということなのですが、道立病院の医師公宅、かなり老朽化していたのですけれども、新築ということで、町の土地を貸与して、今年度着工ということで進めています。そういうことから、折り鶴でもお話ししましたが、道立病院は当分の間は縮小するとかそういうことは、前回議会と町で一緒に行ったときも公式、非公式含めてそういう空気は感じていましたけれども、そっちの方向にはっていないということだけ、そういうベースで今後のことを考えていただければと思います。すみません。

平山委員長 それでは、これで終わります。皆さん、ご苦労さまでした。

上記会議の顛末を記載し、相違ないことを証するためここに署名する。

医療問題調査研究特別委員会委員長